



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第6号(2008年4月11日)

「新興国経済の成長を享受する「新・国際優良企業」

過去日本企業が海外進出を行う場合、アメリカを中心とした先進国へ進出することが重要視されてきました。しかし近年では中国やインド等の新興国において成長することが、企業の成長にとって非常に重要なポイントになっております。(新興国で積極的に収益を上げて行く企業を、新・国際優良企業、と呼べると考えます。)

近年BRICsに代表されるような新興国が大きな成長を遂げてきております。今まで新興国は安い人件費等を背景に「世界の工場」として製造業の生産拠点として位置付けられていました。しかしながら、急速な経済発展による所得の向上で、次第に購買力を身に付け、現在では「世界の消費地」へと大きく変貌を遂げてきております。

そして、膨大な人口を抱えているこれらの国々で消費が拡大していくことで、巨大なマーケットが新たに出現し、これらの国々に進出した企業は現地での売上高の大きな成長が期待できます。

このような理由で、これらの地域において成長を遂げる新・国際優良企業はいわば、新興国の企業と同じような成長が期待できると考えております。むしろ現地の企業と比較すると、はるかに高い技術力とブランド力を持っており、競争力は高いと考えます。そして、日本国内の競争を勝ち残った企業でもあるので、財務内容やコーポレート・ガバナンスもより優れた企業が多いと考えられます。にもかかわらず、日本株は、現在非常に割安な水準に放置されています。

しかし、新興国株へ直接投資した方が良いという意見もあるかと思えます。確かに新興国株の投資は大きなリターン期待が持てます。一方で、情報開示、財務内容などにリスクがあると考えられます。また高い成長の期待を反映し既にバリュエーション的に高い水準まで買われている銘柄も少なくありません。新・国際優良企業への投資は、このような新興国株投資のリスクを相対的に抑えながら、かつ割安に投資を行なえるのではないかと考えております。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。また、上記は株式投資に関して理解を深めていただくためのものであり、特定の有価証券を推奨しているものではありません。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。